



1 今年度の取組目標と具体的方策 その成果

目標と方策	数値目標	結果	自己評価
(1) 4-4-4 (4の区切りの実践) による「態度の育成」			
指導をつなぐ研究授業を活用した他学部参観の実施	P T 2回以上実施	通年実施	○
改訂した「態度の指導内容表」を活用した各教科等を合わせた指導の充実	全通年	通年実施	○
ステップ1【小学部 第一学年から第四学年】			
(ア)日常生活を通した『わかって動く』態度の育成	全通年	通年実施	○
(イ)集団の中で『わかって動く』態度の育成 (日常生活の指導)			
(ウ)身近な役割活動の中で『わかって動く』態度の育成 (日常生活の指導)			
(エ)役割活動が分かり『わかって動く 考えて動く』態度の育成 (生活単元学習)			
ステップ2【小学部 第五学年から中学部 第二学年】			
(オ)短い見通しをもって役割を理解し『考えて動く』態度の育成 (生活単元学習)	全通年	通年実施	○
(カ)役割を理解し『考えて動く』態度の育成 (生活単元学習)			
(キ)役割を理解し『考えて動く』障害特性に応じたセル方式による作業学習の改善と態度の育成			
ステップ3【中学部 第三学年から高等部 第三学年】			
(ク)ラインを意識し、自分自身の役割に『責任を果たす』態度の育成(作業学習)	通年	通年実施	○
(ケ)中学部第三学年と高等部第一学年との協働作業による態度の育成			
(コ)中学部から高等部へ・・・教材ボックスの引継ぎと内容の見直し			
(サ)障害特性に応じたライン工程分析による作業学習の改善と態度の育成			
(シ)高等部 トライアル作業による態度の再構築(作業学習)			
(ス)作業学習を統括管理するプランニング事業部の設置と運営			
(セ)ピースマイルカフェを中心とした作業学習の横の連携			
(ソ)全ての作業種で行う統一化された手法による除菌清掃の実施			
(タ)地域の企業と連携した作業学習の展開			
(2) 学校経営の軸を為す研究研修の充実と授業力向上			
「八西新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」の遵守徹底による授業の実施	通年	通年実施	◎
4ベースチェック表を活用した全員研究授業の実施	一人一回	実施	○
「一貫した指導のアプローチ」を貫く外部専門家を活用した専門性向上研修の実施	通年	通年実施	○
学習指導要領の各学部・各段階に応じた教材整備(美術、認知の学習、社会性の学習)	専門性P T	通年	○
PTA と連携した児童・生徒のための教材作成支援	通年実施	連携実施	○
態度の育成を軸にしたカリキュラムマネジメントの確立(3年計画の3年次)	研究研修部	通年	○
経営の軸となる公開研究会の全国への公開	研究研修部	オンデマンドにより実施	○
専門性を担保する八西専門性スタンダードの構築(指導・教材編)(3年計画の3年次)	専門性スタンダード	通年	○
(3) 専門家連携による教員の専門性の向上			
言語機能アセスメント J-sKepアセスメント等による根拠に基づく指導の充実	通年	通年実施	○
抽出型、観察型アセスメントとカンファレンスによる専門性の向上	通年	通年実施	○
観察型アセスメントによる学年内でのカンファレンスの実施	通年	通年実施	◎
言語機能アセスメントの理解を深めるための実践的な研修の実施	通年	通年実施	○
観察型アセスメントの成果還元のための外部専門家だよりの発行	外部専門家P T	年間6回以上	◎

「手帳」による系統的なスケジュール指導	通年	通年実施	○
(4) ICTを活用した教育活動の充実			
知的障害の程度が重い児童・生徒の ICT 活用充実事業(研究指定校)	通年	通年実施	◎
デジタル教材による教材教具発表会の実施	研究研修部	通年実施	◎
複数の教科を関連させた ICT 機器を取り入れた授業づくりの展開	通年	通年実施	◎
作業療法士と連携した「朝の体操」/ICT を活用した日常生活の指導	通年	通年実施	○
工業高校との連携開発による「八西アプリ」を活用したスケジュール指導の充実	通年	通年実施	○
工業高校との連携協定による「アプリ」の更なる開発と活用による授業づくり	通年	通年実施	○
導入したアプリ ドロップトーク・ドロップタップの積極的な活用	通年	通年実施	○
高等部における一人1台端末を用いた指導の充実	通年	通年実施	○
アナログからデジタルへ・・・手だてをつなぐ個に応じた ICT 機器の活用	通年	通年実施	○
手だてをつなぐ「手帳」や「ICT 機器」の積極的な活用	通年	通年実施	○
ICTを活用した学習・生活支援の充実「魔法のプロジェクト 2021～魔法のMessure～」実践研究協力校	通年	通年実施	◎
学習支援クラウドサービス Teams を活用した教育活動の推進	通年	通年実施	○
(5) 12年間を貫く進路指導と職業教育の充実			
小学部から就労を意識した企業による進路指導研修会の実施	全教員	実施	○
12年間を貫く進路指導について、保護者へのお便りや研修の充実	進路指導部	実施	○
12年間を貫く進路指導について、教員への理解啓発	各学部1回	実施	○
主権者としての自覚を育む生徒会選挙による主権者教育の実施	高等部1回	1回	○
高等部卒業学年のさらなる企業就労率の向上	進路指導部	%	○
高等部内部進学生の企業就労率の向上	進路指導部	%	○
希望する進路先実現に向け、企業就労希望者・福祉就労希望者に対する内定率の向上	企業 90% 福祉 100%	企業 100% 福祉 100%	◎
高等部卒業生への継続的な定着支援	通年	実施	○
自立と社会参加を促す保護者向け進路便りの発行	年間6回以上	年間6回	○
指導教諭による模範授業の公開と校内及び他校への授業支援（作業学習）	指導教諭	通年	○
(6) 一人一人の障害特性に応じた安全指導・生活指導の充実			
児童・生徒の通学を支援するスクールバスの安全な運行	通年	通年実施	○
児童・生徒の自立と社会参加を目指した一人通学の一層の推進	通年	通年実施	○
児童・生徒の人権に配慮した適切な対応と人権研修の実施	通年	通年実施	○
人権に配慮した掲示物などの環境整備と定期的な点検(チェックシートの実施)	年3回	毎月実施	○
いじめ・体罰防止・自殺防止の徹底	全教職員	悉皆研修	○
SNS学校ルールを踏まえた警察や関係諸機関と連携した指導の徹底	通年	通年実施	○
スクールカウンセラー等を活用した生徒指導(心のケア)・仕組作りとカウンセリングの実施	通年	通年実施	○
特別な対応が必要な児童・生徒に対する校内支援委員会の開催	随時	通年実施	○
都の通知を踏まえ、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底した部活動の計画実施	通年	通年実施	○
都の通知を踏まえ、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底した部活動の実施	通年	通年実施	○
(7) 大規模災害に対応した防災教育の推進			
「八西新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」に基づく避難訓練の実施	年5回以上	10回	◎
新型コロナウイルス感染症対策を講じた(宿泊)防災訓練の実施	年1回	引取訓練として代替実施	○
大規模災害に対応するための防災スターキットの活用訓練	9月まで	実施済	◎
保護者と連携し、一人一人の特性に応じた自助バックの配備	全児童生徒	実施	○
大規模災害を想定した学校危機管理マニュアルの点検	6月中	実施	○

首都直下地震等に対応した防災講演会の実施	年1回	1回	○
校舎内外の危険個所の整備と安全点検・環境整備の徹底	通年	通年実施	○
技能主事と教員との連携による校舎内外の環境整備	通年	通年実施	○
(8) スポーツ・文化の成果発表と「学校2020レガシー」の構築			
台湾仁武特殊教育学校との積極的な国際交流	計画・実施	未実施	△
コロナ対策を講じた文化祭『くわのみ祭』の計画実施	計画・実施	オンデマンド開催	◎
八西オリジナルスポーツの開発と交流の計画(3年計画の3年次)	通年	夏季研修実施	○
「学校2020レガシー」構築に向けた日本の伝統文化理解教育の推進	計画・実施	実施	○
オリパラ文化事業による芸術教育の推進	計画・実施	実施	○
美術展等の積極的な応募による児童・生徒の意欲の喚起	通年	通年実施	○
(9) 特別支援教育のセンター的機能の充実と地域連携			
八王子市教育委員会等の方針に基づく特別支援教育の推進	随時	随時実施	○
コロナ禍における学校間交流の計画実施	通年	通年実施	○
完成した「八西オリジナルスポーツ」を活用した学校間交流の計画	通年	実施	○
コロナ禍でのオンライン等を活用した副籍の計画実施	通年	随時実施	○
コロナ禍での間接交流の積極的な実施	通年	随時実施	○
「八西新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」に基づく巡回相談の実施	通年	随時実施	○
高等学校における積極的な巡回相談の実施	通年	随時実施	○
エリアネットワーク拠点校と連携した高等学校への支援	通年	随時実施	○
エリアネットワーク地区拠点校としての高等学校通級指導における支援	通年	随時実施	○
ピースマイルカフェを活用した地域・関係機関への展開	通年	随時実施	○
学校開放事業を通じた地域との連携	通年	随時実施	○
(10) 安心・安全な学校保健体制と給食の提供			
「八西新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」遵守徹底	通年	通年実施	○
学校保健安全計画に基づく個別・集団に向けた保健管理・保健教育の充実	通年	通年実施	○
保護者や医療機関との連携による適切なアレルギー対応と教員研修の実施	悉皆	4月実施	○
エピペンを活用した教職員向けアレルギー対応研修の実施	年1回	悉皆実施	○
豊かな食生活を目指した栄養士と連携による食育の推進	栄養士	実施	○
安全で適正に提供するための形態食の検討【3年計画の3年次】	検討	計画作成	○
医療的ケア実施に向けた体制整備	医療的ケア安全委員会	計画作成	○
(11) 保護者や地域、関係機関等へのタイムリーな情報発信			
HPによる最新情報の積極的な更新	300回以上	340回	◎
「4-4-4」でつなぐ教育活動・行事・教員研修等(学校日記)の更なる配信	通年	55回	◎
栄養士と連携した学校給食の配信	通年	毎日更新	◎
学校紹介動画の更新、学校紹介等パンフレットの作成と活用	通年	実施	◎
経営企画室から保護者への情報発信	随時	実施	○
(12) 学校運営・組織体制の充実			
マネジメントシートの活用とセクション長による業務管理	通年	実施	○
学校経営計画実現に向けた学部運営会議の充実	通年	実施	○
学部運営会議・セクション制度による主任教諭等の人材育成	通年	実施	○
組織運営力強化のための幹部会の内容の充実	幹部会	通年実施	○
学校課題の洗い出しと課題解決のための幹部会(戦略会議)の実施	幹部会	通年実施	○
企画調整会議の効率的な実施	企画調整会議	通年実施	○
個人情報紛失防止の徹底【クリーンデスク・クリーンルーム】	月1回以上	月1回実施	○
服務事故ゼロに向けた副校長による研修の徹底	10回以上	10回	○
八西情報セキュリティ基準の随時改訂による基準の遵守	通年	実施	○
八西DX・くわっこ貸出システムを活用した端末の適正管理	通年	通年実施	◎

八西 DX・オンライン会議ツールを用いた会議によるペーパーレス化の徹底	通年	通年実施	○
八西 DX・さらなるペーパーレス化によるコスト削減と業務の効率化	通年	通年実施	○
コスト意識を高め適正な自律経営予算の策定と執行	通年	実施	○
PDCAサイクルによる自律的・継続的改善に資する学校評価の更なる改善	通年	実施	○
学習支援クラウドサービス Teams を活用した学校評価アンケートの実施	通年	実施	○
別に定める『八西働き方改革推進プラン』による効率的な業務推進	通年	実施	○
別に定める『八西働き方改革推進プラン』によるライフ・ワーク・バランスの推進	年休 15 日以上取得・月 1 回の定時退庁の促進・定時外 在校時間月 45 時間以内	年休 15 日以上 84.7%・定時外 在校 45 時間を超の人数月平均 8.5 人	○
産業医を活用した教員の健康増進と安全衛生委員会の充実	年 11 回以上実施	年 11 回実施	○
「服装規定 ドレスコード」の改訂と遵守徹底	通年	通年実施	○
ロールモデルとなる教職員として『わかって動く・考えて動く・責任を果たす』の実行	通年	通年実施	○
ロールモデルとなる教職員として学校窓口業務等、外部への丁寧な対応(電話を含む)	通年	実施	○

2 今年度のまとめと来年度に向けた改善の方向性

(1) 教育活動全体を通して

- ・新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに基づいた安全な教育活動を工夫して実施できた。
 - ・儀式、学校行事、教員研修など、動画やオンラインを活用した新たな方法により実施できた。
- ⇒ 来年度も新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに基づいた教育活動を継続する。
 感染症の状況の変化に合わせ、学校行事の実施の可否や方法について、柔軟な工夫や対応を行う。
 オンラインを活用した更なる教育活動を充実させ、保護者会等はハイブリッドによる実施を推進していく。

(2) 学習指導の充実について

- ・環境整備、アセスメントに基づく指導、外部専門家連携等による指導を充実させることができた。
 - ・12年間のつながり(4-4-4の実践)など、教育活動を工夫することができた。
- ⇒ 外部専門家連携等による指導を継続し、専門性の向上に努める。
 12年間のつながり(4-4-4の実践)など、コミュニケーション指導やスケジュール管理の指導を継続する。
 12年間のつながり(4-4-4の実践)などの取組について、教職員の理解を進め継続した保護者への説明を行う。
 GIGA スクール端末等の授業の中での活用や使いやすいアプリの導入を進める。
 GIGA スクール端末等の長期休業中など、家庭への持ち帰りなど、家庭での活用について対応できるようにする。

(3) 防災への取組について

- ・自助バッグや災害時スターターキットの活用など発災時の対応について準備が整った。
- ⇒ 災害に備えて常時使用できる状態に保つため、自助バッグの中身の点検等、保護者への理解・協力を依頼する。
 災害発生時に混乱なく対応できるよう「緊急配備態勢」の確認と防災スターターキットを活用した訓練を行う。

(4) 情報発信、広報活動について

- ・学校ホームページにより教育活動について発信できた。
- ⇒ 学校ホームページを活用し、動画などを制作掲載し、教育活動をより分かりやすくタイムリーに配信する。
 保護者宛のお知らせ等、内容の精査、紙の配布物の更なる削減マチコミ配信とホームページ掲載を行う。
 児童・生徒の地域への活動を展開し、作業学習等を通して地域や企業等との連携を進めていく。
 コロナ渦の中で、今年度から実施したジャノメへの地域連携を更に深めていく。喫茶「ピースマイル・カフェ」の営業活動を実施し、浅川地区や八王子市の住民との連携を深める中で、本校生徒の態度育成を軸にした作業学習の向上を図る。

(5) 教職員の対応について

- ・ 教員の「働く態度」の自己評価アンケートや電話対応等の研修を実施した。
- ⇒ 今後もさらに挨拶、言葉遣い、身だしなみなど社会人としての基本的なふるまいを徹底していく。
子供も大人も「わかって動く・考えて動く・責任を果たす」ことを徹底する。

(6) 効率的な業務推進について

- ・ 働き方改革について、定時外在勤時間45時間以上の教員を月平均8.5人にすることができた。
- ⇒ 「八西働き方改革推進プラン」を改訂し更なる働き方改革によるライフワークバランスを推進する。
教職員のライフワークバランスを積極的に進める。安全衛生委員会、産業医などの活用を積極的に行う。
ペーパーレスによる会議の効率化や業務の効率化を推進する。

(7) 学校運営・組織体制の充実について

- ・ 学校評価結果を次年度予算に反映させ、マネジメントサイクルに基づいて評価・改善できるよう学校評価を7月に実施した。
- ⇒ 2学期の始めに、学校運営連絡協議会の委員や保護者の要望や学校課題の指摘をいただくことで、今年度中に改善点を提示することができた。来年度も継続していく。